

● 構成メンバー

低侵襲医療研究室は、当院の外科系各診療科(外科 泌尿器科 心臓血管外科 小児外科 耳鼻咽喉科 産婦人科 腎移植外科 脳神経外科 麻酔科 呼吸器外科 眼科 皮膚科 整形外科)で構成されている。

● 活動状況

1. 当研究室は患者さんにとって身体の負担の少ない医療の提供を目的に、各科が日々研鑽をつんでいる。
2. 具体的には当研究室では内視鏡手術の専門医(日本内視鏡外科学会技術認定取得者)を多数配し、安全・安心な内視鏡手術の実践に努めている。
3. 当研究室は、近隣地域からの受診にとどまらず県内・県外から多数の患者さんが受診し、地域医療のみならず所属している学会を主導している診療科も複数科あり、活発な研究活動を行っている。論文、学会報告等は各診療科ページを参照されたいが、2021年3月に塩田直史医長が第15回日本コンピュータ支援整形外科研究会(CAOS)をハイブリッド形式で開催した。また2021年11月には竹内一裕医長が第24回日本低侵襲脊椎外科学会を東京で開催する予定である。
4. 低侵襲手術例は具体的には泌尿器科が新たに経尿道的尿路結石除去術を開始して38例の症例を実施し、その他には腹腔鏡手術を20例、経尿道的膀胱・前立腺手術を149例施行している。胸部外科が胸腔鏡手術年間約120例、一般外科が内視鏡視下手術を年間343例行っている。外科手術の内訳は腹鏡視下結腸・直腸切除術93例、同胆嚢摘出術72例、同ヘルニア手術70例、同虫垂切除術41例、同胃切除術22例、同肝切除術7例と内視鏡視下甲状腺切除術3例であった。産婦人科は内視鏡手術を年間13例行っている。心臓血管外科においても胸腔鏡を用いて小開胸下に弁膜症、冠動脈手術が年間約10例行われている。小児外科で鼠径ヘルニア根治術や停留精巣固定術などの手術以外にも腎盂形成術、噴門形成術、鎖肛根治術、ヒルシュスプルング病根治術、横隔膜ヘルニア根治術、脾臓摘出術、腓体尾部切除など種々の手術を内視鏡下に試行しており、年間100-120例におよんでいる。整形外科では内視鏡ヘルニア摘出術が年間約110例、ナビゲーションシステム脊椎手術が約50例、骨盤輪損傷に対するコンピュータ補助によるナビゲーションシステム内固定術が約30例行われている。このように、当室の診療科は「外保連(外科系学会社会保険委員会連合)手術指数」による手術技術度の高い手術を多く行うことにより、当院がDPCⅡ群病院であることに大きく貢献している。
5. 当研究室に配分されている年間の総予算額の約248万円を、診療科の実績やニーズに合わせながら適宜適切に分割し使用している。

● 研究業績

当院の各診療科のページや診療科独自のホームページをご参照ください。